

昨年の全日青結成五十周年という大きな舞台で、第三十代の執行部をスタートさせてより、早半期一年の月日が流れました。私たち全日青執行部の発信する活動に対し、ご参加ご協力をいただいた全国の日青会各聖、また様々なお力添えをいただいた各聖各位には、心より御礼を申し上げます。

この一年間の活動を通し、全国的な青年僧は勿論のこと、様々な業界の中で活動をされる方々と出会い、共に事業に取り組んでいく中で、私たちを取り巻く社会が目まぐるしく変化していることを、改めて実感させられました。家族制度の崩壊、個人主義、オンライン上でのみ交わされるコミュニケーション、若年層の孤立死等々、人々は今までと違った新しい何かを求め、その反



変わりゆく時代の中で

～一年の活動を振り返り～

第30代 会長
千葉県南部日青会
小泉 輝泰

面、何か大切なものを失って行くのではないのでしょうか。こうした新しい価値観をもった人々が形成する社会の中で、私たち伝統を重んじる仏教僧として、嫌が応にもその変化に対応して行かなければならない時代が訪れているのです。

殊に本年三回忌を迎えた東

日本大震災では、私たちは様々な問題に直面し、そこから多くを学ばせていただきました。僧侶として何かを試さんとする思いと、その前に立ちほだかる社会の大きな壁。前期執行部より少しずつ築き上げてきた信頼がようやく実を結び始め、私たちに小さな入り口を開いてくれます。あれから早二年、そしてまだ二年、未だ「復興」とは決して言えない現地の状況を見れば、今まで結んできた沢山の人の絆を保ちながら、これからも長い時間をかけて復興支援に携わって行かなければならないことは明らかです。

自身の置かれた環境の中で、昨日までの自分を省みながら、また明日の新しい自分に生まれ変わることが出来る。この柔軟さこそが、私たちが若き青年僧の大きな武器であります。そこに

伴う変化とは、決して社会への迎合などではありません。自身が僧侶であること、そして何よりも宗祖大聖人の弟子であることの誇りと悦びを心に持ち、胸を張って寺門を開き社会に飛び込んで行くことが、今私たちに求められている本当の「変化」ではないのでしょうか。

私たち三十代執行部が掲げる大きなテーマ「自覚」とは、まさにこうした時代に生きる若き僧侶の、心の柱となるべきものでなければなりません。私たちはこのテーマを掲げ、社会への教化力の充実を目指して様々な事業展開をしています。「震災復興」、「青少年教化」、「社会教化」、「立正平和活動」、取り組むべき課題は多くとも、まずは私たち自身が新しい社会への教化力を身に付けなければ、何ものをも成就することは叶いません。そのために時に学び、そして時に新しい何かに果敢に挑戦して行く、皆様と共に歩み、生まれ変わって行けるような全日青でありたいと願っています。

残すところあと二年。これからは全日青の活動に対し、全国の日青会員のご参加と、ご協力をお願い申し上げます。



① 全日青被災地復興支援ボランティア活動

【宮城県南三陸町】 ■ 震災復興担当委員長 梅澤宣周

② 平成23年11月28日 インド龍宮寺13周年記念法要

■ 事務局長 遠山玄秀

③ WFBY 40th Ceremony

(世界仏教青年連盟 創立四十周年) ■ 海外布教研修担当委員長 市川泰雅

④ 集まれ東北のこどもたちイン横浜

■ 青少年教化担当委員長 山本応也

⑤ 平成二十四年度行学道場報告

■ 行学道場担当委員長 谷川寛敬

全日青被災地復興 支援ボランティア活動

震災復興担当委員長 梅澤 宣周

平成二十四年十一月二十一日、吹き荒れる海風の寒さが肌を刺す宮城県南三陸町。

初冬の被災地へ全国日蓮宗青年会は「東日本大震災復興支援ボランティア活動」を呼びかけ、全国から三十数名が南三陸町ボランティアセンターに集結した。十一月後半の東北地方は雪がいつ降ってもおかしくない時期である。当日の天候は、晴れ時々曇り、最高気温は七度を下回った。ボランティア活動内容は瓦礫撤去作業。作業場所は海に近い大津波被災地区の住宅跡地だった。

そこは、東日本大震災の津波により家屋が破壊され瓦礫が散乱し、住宅の基礎が泥で覆い尽くされている状態だった。

あの三月十一日から時間が止まったままの場所である。そのような場所で瓦礫を見ると仮設住宅の方々は東日本大震



ボランティア活動風景



防災庁舎にて供養と復興祈願

災を思い出し、外に出ることが億劫になるそうである。

これが引きこもりの一つの要因とも言われている。仮設住宅の方々の気持ちや復興に向け半歩でも前進するように、災害ボランティアセンターではこの瓦礫撤去作業を中心にやっている。その場所を青年僧含め約七十名のボランティア参加者と共に、津波被害で住宅基礎部分が埋もれた箇所をスコップ、ツルハンシ等を使ってきれいにしていた。周りには泥や草木を手作業で取り除き、そこから出てくる【瓦・外壁・可燃物・家電・陶器・ガラス】など正確に分別してまとめっていく。あの黒い泥から出てくるものは様々で、まさにここで一年半前まで生活していた形が現れてくる。筆記用具、子供のおもちゃ、鍋やヤカンなどの調理道具、封の切られていない瓶詰め食品。ここで生活をしてきた方の思い出の品々が語りかけるように出てきた。私が拾った中に、小学生が履いていたと思われる泥だらけの靴が一足だけ出てきて：

『この子は無事だったかなあ…』と。

やっぱり、この様なものをガレキと呼ぶには切ないものである。このような現状の中、参加者は瓦礫撤去作業の現状を痛感し、被災地に対し少しずつ心を寄せて作業を進めていった。たった一箇所の住宅跡地を綺麗にするのに大人が何十人集まっても丸一日かかる。周りを見れば、そのような場所が数多く見られた。

作業後、ボランティアセンター職員の方の話が印象的だった。

「人的支援は終わりを迎えようとしている。次は経済的支援を求めています。」

「現地で支援をする人達やその土地で生活をする人達へ光りを当てて欲しいのです。」

「被災地の基幹産業である水産加工品を購入することは、

南三陸町（被災地）の経済復興の一助になります。」

被災地での「買うボランティア」「食べるボランティア」は勿論であり、地元に戻ったら、経済復興の一助として、被災地の特産物を紹介することが復興支援に繋がる。また、支援の一環として現地を訪れた人に、「地元に戻ったら被災地の状況を周りの人達に是非伝えてほしい」とも語った。小泉輝泰会長も、「今回の活動を機に更に我々が出来る事を続けて行きましょう」と次回開催も視野に、支援の継続を全国の青年僧に向けて述べた。

ボランティア作業終了後、現地の防災対策庁舎跡にて卒塔婆を立て、参加者全員で読経供養を行い、犠牲者の菩提を弔うと共に早期復興の祈願を捧げた。

最後に、「まだ瓦礫撤去をしているのか？」と思う方も居るかも知れない。現実はまだまだである。東日本大震災後、壊滅状態となった南三陸町は、七割の家屋が被災・住民の半数以上が避難している。死者行方不明者は書かずとも察して頂けると思う。この状況から見ても、被災地の復興にはかなりの時間が掛かるという事。しかし、ボランティアの数は減少の一途をたどっている。その土地に暮らす人達は、移りゆく毎日を目にし、風化を肌で感じ、孤立感を増しているだろう。被災地では、町の復興、心の復興、目に見えるような復興は全然進んでいない。それと同時にボランティア支援者は大分減り本当に風化の早さを実感するばかりである。人々の生活していない町は、何度見ても言葉では言い尽せない寂しさを感じる。

昨今、この大震災について全国規模の報道はほとんどなくなり、風化が進む中、被災地が忘れられてしまうことは、被災地が孤立してしまうことと同じことなのではないだろうか。復興支援について皆様がそれぞれの生活の中で、自分の出来ることをしていると思うが、その気持ちを忘れる



檀信徒と共に記念撮影



記念式典での木剣修法

ことなく継続して頂きたいと切に願う。同じ日本で起きたことである。同じ大地に住んでいるのだ。
「ここるところの手をつないでいきましょう」
今後多数多くの被災地へのご支援を宜しくお願い申し上げます。活動報告とさせていただきます。

全国日蓮宗青年僧 活動報告

2
report

「インドナグプール市」

2011.11.28

インド龍宮寺

13周年記念法要

事務局長 遠山玄秀

十一月二十八日、インドのナグプール市を訪れ、日蓮宗寺院・妙海山龍宮寺の十三周年記念法要に参加いたしました。

国際仏教親交会から全国日蓮宗青年会へ参加の呼びかけがあり、小泉会長、内山前立正平和担当委員長、藤井事務局員、そして事務局員である私の四名で参加いたしました。国際仏教親交会からは僧俗合わせて十四名、宗務院から



ナグプール市



蓮の灯明

二名の総勢二十名ほどで法要を行いました。
龍宮寺は日蓮宗の篤信者・小川法子女史とインド人の熱心な仏教徒によって建立され、平成十一年十一月二十三日に盛大な落慶法要が営まれました。地上二階建て、間口十二間・奥行二十間、延べ四百坪という大きな本堂、そして広大な境内を持つ大寺院です。
十一月二十六日に東京・羽田空港を出発、タイ・バンコク経由でインド・デリーに入りました。
インド到着後は、タージマハールなどの観光地を視察。その後移動し、二十八日の記念法要に参加いたしました。
記念法要では、龍宮寺の境内に現地の人々があふれ、数えきれないほどでした。法要には十三名ほどの僧侶が参加し、本堂で法要を行いました。法要後は場所を移し、記念式典が行われました。
記念式典では、参加者全員がステージ上で熱烈な歓迎を受けました。
本当に現地の人々が沢山参加しており、日本との違いを感じましたが、その参加者の多くは、信仰というよりも炊き出しが目当ての人々が多く、インドでの布教の難しさを実感いたしました。



台湾の町並み



世界仏教青年連盟創立40周年記念

今年の十二月一日から八日までの日程で、World Fellowship of Buddhist Youth 世界仏教青年連盟の創立四十周年記念イベントが開催されました。会場である台湾には東南アジアを中心とした世界各国の青年仏教徒、連盟の役員が集まりました。
日本からの参加者は各宗派を含め二十名でした。一日の開催式からの参加は日程的にも長丁場になるので、七日に行われる閉幕式を中心に日程を組みました。私は四日の晩に現地に到着し翌日からの参加になりました。
台湾の歴史と文化に触れる内容の日程で、禅寺、現地の仏教寺院、戦死者を祀った廟などを拝観しました。
七日当日には一週間の日程を終えた各国の参加者と日本からの合流組が参加して盛大な閉会式が営まれました。併せて今回の日本からの参加者と共に東日本大震災の追悼式

海外布教研修担当委員長 市川泰雅

WFBY 40th Ceremony (世界仏教青年連盟創立四十周年)

3 report
【台湾】

全国日蓮宗青年僧 活動報告

2012.12.1~12.8

をして頂きました。日本から持参した蓮の灯明を各国の代表者が手に持ち、震災の犠牲者に黙祷が捧げられました。また各国の代表者同士が記念品を交換し合い、お互いの発展と協力を約束して絆を深め、素晴らしい記念式典になりました。

個人的には各国の代表者と声を交わし、日本からの他宗の参加者とも交流が図れて大変有意義な時間になりました。またここで出会った方達の中から本年八月のBuddhist International Youth Exchange Program)において再び日本の福島で顔を合わせる予定です。国際交流にもなるイベントです。

全国日蓮宗青年僧 活動報告

4

report

【会場：神奈川県横浜市
妙法寺】

2012.12.26~12.28

集まれ 東北のこどもたち イン横浜

青少年教化担当委員長 山本応也

昨年十二月二十六日から二十八日までの二泊三日、「集まれ東北のこどもたちイン横浜」と題し、神奈川県横浜市の妙法寺様を会場に、岩手県内被災地の小学四年生から高



オリジナルカップの製造体験



妙法寺にて子どもたちと楽しい食事

校一年生までの震災で親御さんを亡くされた子どもたち、十八名を招待しました。岩手県では片親を亡くされた遺児と言われる子どもが四八一名、両親を亡くされた孤児と言われる子どもが九四名もいます。親に甘える事も出来ず、親も子どもを甘やかすことが出来ない生活は、想像以上のストレスを被災者に与え続けています。

今回は東京スカイツリーに上ったり、横浜でオリジナルカップの製造体験、飲茶の食べ放題、テレビに良く出ているマジシャンをお寺に呼んでのサプライズショーと、盛りだくさんの内容に笑顔があふれ、スタッフとも楽しく過ごしました。

一方で、高校一年生の女の子は、テレビから流れた震災の映像を偶然見て発作を起こしてしまい、その日の晩は一番落ち着くと言っていたトイレの個室で女性スタッフと眠りにつきました。

また、「ご飯よりハンバーガーやピザ、フライドチキンが食べたい」と言い、観光地の自由時間には必ずどこでもゲームセンターを探すといった次第。考えてみると、これも我慢を強いられている被災地の子どもならではの行動だったのです。

地域によっては既に東日本大震災に対しての記憶の風化が始まっています。気にはしていますがこれといった実行に移せないでいる、が正しい言葉かもしれません。まだまだ辛い思いをしている子どもたちが被災地にはたくさんいる事を心の片隅に覚えておいて頂きたいです。亡くなった方々のご冥福をお祈りする事ももちろん大事です。同様に被災地の復興、被災者の心の復興をお祈り下さい。最後になりましたが、この企画に対し多くの皆様方のご支援、温かいお言葉を本当にありがとうございます。

今後ともご協力宜しくお願い申し上げます。

平成二十四年度 行学道場報告

行学道場担当委員長 谷川寛敬

今年度は全日青結成五十周年という記念の年でもあり、行学道場では『自覚』というテーマのもと、宗務院を飛び出し、場所を身延山に移しての開催となりました。また、今年度の新しい試みとしては、檀信徒にも広く参加を呼びかけ、僧俗一体となった行学道場を二日間に亘って開催する事でした。

ただただ日蓮大聖人に報恩の誠を尽くさせて頂き、我々末弟が初心に立ち返るといふ一点で企画したのですが、企画当初は開催日時や身延山という土地柄などの関係で、「一体全体本当に参加申込があるのだろうか？」そんな心配をさせて頂き、心ある方々の有り難い声を耳にしてみました。実際私自身も、蓋を開けてみるまで心配でした。そんな折、身延山大学名誉教授に就任された宮川了篤先生を講師にお招きすることが決まりました。先生と講義内容について打



輪番奉仕



行学道場

ち合わせをする中、檀信徒と僧侶合わせての講義という事で、講義内容も二転三転し、先生には大変ご迷惑をお掛けしてしまいました。この反省は来年度に生かしていきたいと思えます。

そして迎えた初日の二月二十日午後一時。参加者は、北は北海道から南は九州の遠近各地より、万障繰り合わせて多数お集まり頂きました。会場は身延山大学の二〇二号室。参加総数一〇三名が集う中、久遠寺を代表して奥野法務部長様と、小泉会長のご挨拶を賜り、宮川先生のご講演が開始しました。

ご講演の内容は、まず檀信徒に向けて『なぜ法華経でなければいけないのか？』という問いに、随自意随他意の法門を基に分かりやすくお話しになり、続いて青年僧に向けては、通仏教的視点から、日蓮聖人・道元上人・親鸞上人・良寛上人などを題材に「仏教的安心」について。また、ご自分が僧侶としての『自覚』が芽生えるきっかけともなった体験談を、火が出るような熱い口調でご講演を賜り、聴衆一同感激し、万雷の拍手の中、午後三時お題目を三唱してご講演の幕を閉じました。

その後、参加者約五十名は、身延町消防団員に用意して頂いたワゴン車にそれぞれ乗り込み御廟所へ移動。身延山在院生五名の先導により、御廟入り口からお題目を唱え行脚をしながら御廟前に到着。日蓮大聖人へ報恩感謝のお題目、東日本大震災で犠牲になられた御霊に対して慰霊の読経をさせて頂き、原副会長のご挨拶にて初日の行学道場の日程を無事に終了しました。

二十二日の二日目は、久遠寺朝勤に十七名の青年僧が出仕させて頂きました。中には信行道場以来の柵内に感涙した者もおられました。朝勤に続いて、午前九時より全日青会初となる輪番奉仕に青年僧十二名が出仕。他行学



御廟所の清掃活動



唱題行脚で御廟所参拝

道場に参加された、富山県の真成寺参拝団六名も加わり、計十八名での輪番奉仕となりました。小泉会長導師を先頭に、真新しい輪番旗を掲げた原副会長が続いて、大聖人の御真骨を拝しました。その後、作務衣に着替えて十時四十分に御廟所に集合し、十二名の青年僧で御廟所の清掃活動をさせて頂きました。両日とも快晴の身延山で、十二時に今年度行学道場全ての行程を無事に終了致しました。

活動支援金・表賀拝受

ご支援・ご協力を頂いた方のご芳名(順不同・敬称略)

孝勝寺	富山県宗務所	妙興寺	久昌寺	本満寺	京都府第一部宗務所長 藤井照源	清澄寺	東京都南部宗務所長 石井隆康	常在寺	熊本県宗務所	本澄寺	東京都北部宗務所	本覚寺	七面山 敬慎院	千葉県南部宗務所	千葉県 顕妙寺	千島県 常國寺	青森県 妙龍寺	神奈川県 大光寺	岡山県 日應寺	山梨県 佛成寺	東京都 妙幸寺	福岡県 妙興寺	静岡県 明善寺	東京都 大教寺	宮城県 妙勝寺	東京都 法妙寺							
伊丹栄彰	藤井照源	石井隆康	駒野教源	沖鳳享	野田寛英	松永慈弘	田中文教	持田日勇	北山孝治	浅井玄裕	永田一孝	岡部日聡	瀬川観照	濱田壽教	永倉嘉文	藤原円俊	服部智謙	佐橋龍岳	柴田寛彦	中川法政	上村貞雄	杉山智光	濱田壽教	工藤随源	瀧川真弘	山本勝也	竹内俊秀	関戸堯海	本田榮秀	古田寿厚	高崎陽堂	大崎妙恵	神藏義一
東京都 法性寺	熊本県 長延寺	福岡県 妙立寺	神奈川県 妙法寺	静岡県 本能寺	埼玉県 明昌寺	神奈川県 妙善寺	千葉県 長福寺	石川県 妙典寺	茨城 中島英忍	千葉県 法蓮寺	神奈川県 常照寺	北海道 法華寺	北海道 妙龍寺	北海道 妙法寺	千葉県 高照寺	鈴木良敬	原 恵晋	塩入幹丈	久住謙昭	保田義彰	村井惇匡	加納信悟	能登海正	塩崎望巳	伊東政浩	内山智道	久富慈順	佐々木光道	英義	英義	英義	英義	英義

本会活動に多大なるご支援・ご表賀を賜り、心より御礼を申し上げます。充実した活動のため、活用させて頂きます。ご協力有難う御座いました。

平成24年度 全国日蓮宗青年会 財務中間報告

平成25年1月19日現在

収入の部

(単位 円)

科 目	24年度予算額	24年度中間報告	増 減	備 考
単位日青会分担金	1,800,000	1,709,000	-91,000	47日青会
宗務院助成金	1,000,000	1,000,000	0	
機関誌広告費	300,000	350,000	50,000	10業者
活動助成金	1,000,000	2,115,000	1,115,000	含50周年会計より分配金
前年度繰越金	1,697,049	1,697,049	0	
雑 収 入	65,000	4,515,000	4,450,000	宗報原稿料・記念誌作成費
収 入 合 計	5,862,049	11,386,049	5,524,000	

支出の部

(単位 円)

科 目	24年度予算額	24年度中間報告	増 減	備 考
事 務 費	1,000,000	962,969	-37,031	項1,2の合計
各担当委員会事業費	750,000	372,129	-377,871	11委員会・機関誌発行費等
ホームページ経費	250,000	525,420	275,420	
会 議 費	550,000	423,480	-126,520	項1~4の合計
代表者会議	50,000	0	-50,000	
執行部会議	120,000	63,480	-56,520	2回
事務局会議	50,000	30,000	-20,000	2回
各担当委員会会議費	330,000	330,000	0	
事務通信費	430,000	542,864	112,864	
出張費	1,360,000	620,190	-739,810	項1~4の合計
ブロック助成金	450,000	145,090	-304,910	
全日仏青	150,000	150,940	940	
執行部会議	360,000	94,930	-265,070	
そ の 他	400,000	229,230	-170,770	祝賀会・打合せ会議等
助 成 金	1,400,000	900,000	-500,000	項1,2の合計
ブロック助成金	900,000	400,000	-500,000	
結集助成金	500,000	500,000	0	
全日仏青負担金	150,000	250,000	100,000	加盟負担・協賛広告・大会負担
災害救援対策基金	200,000	200,000	0	
慶 弔 費	50,000	0	-50,000	
予 備 費	722,049	0	-722,049	
支 出 合 計	5,862,049	3,899,503	-1,962,546	

全国日蓮宗青年会本会計残高 7,486,546



ベストウェスタンホテルニューシティ弘前
〒036-8004 青森県弘前市大町 1-1-2
Tel:0172-37-0700



ベストウェスタンホテル高山
〒506-0026 岐阜県高山市花里町 6-6
Tel:0577-37-2000



ベストウェスタンプレミアホテル長崎
〒850-0045 長崎県長崎市宝町 2-26
Tel:095-821-1111

上質の新基準

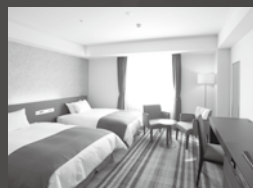
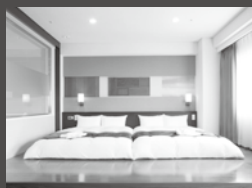
ベストウェスタン是世界80カ国に4,200軒のホテルをメンバーに持つインターナショナルホテルブランドです。

単一ブランドとしては加盟ホテル軒数が最も多い、世界最大級のホテルチェーンです。

統一されたブランドスタンダードによって、世界中のどこを利用しても安心と信頼が約束され、世界中の旅行者から愛されています。

客室を選ぶ、食事を選ぶ、ホテルライフを楽しむ…。

楽しみ方は『貴方しだい』。自分らしさの旅をご提案します。



株式会社ランドナーージャパン

〒460-0007 愛知県名古屋市中区新栄2-1-9 雲竜フレックスビル西館3F
TEL:(052)261-8445 / FAX:(052)241-1915
URL: <http://www.landowner.jp> / E-mail: public-relations@landowner.jp

<http://www.bestwestern.co.jp>

総本山身延山久遠寺御用 日蓮宗大荒行堂御用

数珠製造・仏像仏具・各種記念品土産一式

若松屋数珠仏具店

山梨県南巨摩郡見延町見延3700

TEL 0556-62-0145 FAX 0556-62-0191

振替／0045-5-1624 取引銀行／山梨中央銀行見延支店

E-mail wakamatu@eps1.comlink.ne.jp

ホームページ URL <http://www.eps1.comlink.ne.jp/~wakamatu/>

総本山身延山久遠寺・日蓮宗大荒行堂 御用達

身延山ご参拝お土産品 各種記念品等

浪花屋珠数仏具店

店主 深澤永寿

〈東谷参道の老舗〉御珠数・仏像・仏具・太鼓・掛軸・経本・線香・木鉦・印伝・水晶 等

多少に関わらず御用命お待ちしております

〒409-2524 山梨県南巨摩郡身延町身延3550 TEL 0556-62-0200 FAX 0556-62-0771

伝えたい! をお手伝いします

<http://www.e-for.jp/>

- | | |
|------------------|---|
| 取
扱
品
目 | 印刷全般
機関誌・報告書・名簿・他ページ物
パンフレット・ポスター・会社案内
封筒・名刺・帳票類
ノベルティ・他特殊印刷 |
| | メディアミックス
ホームページ企画・作成・管理
ビデオ撮影・編集・パッケージ化
電子書籍・出版
プログラミング・データ処理
掛軸・文化財レプリカ作成 |

株式会社 イーフォー

〒141-0031 東京都品川区西五反田8-7-11 アクシス五反田ビル202
TEL 03-3779-1140 FAX 03-3779-1141

宗祖名附茶屋

其
老舗

みのや

TEL 0556-62-0312
FAX 0556-62-2526

振替口座 00450-2526

E-mail
minoya11@eos.ocn.ne.jp

総本山身延山久遠寺御用達
日蓮宗大荒行堂御用達
各本山寺院御用達

念珠、仏像、仏具
水晶、印伝、名香
雨畑、土産品式
印章一式、表装

済和山所用達 麻布居

株式会社 池澤法衣佛具店

〒604-8116 京都市中京区高倉通六角下ル
TEL 075-221-2769(代) FAX 075-256-0036

●日曜・祝日・第2、第3土曜日は勝手乍ら休業させていただきます。

通話料は無料(弊社負担)で承ります。(AM10:00~PM5:30迄)

 **0120-23-4570**

全国日青加盟単位日青会												会長名簿														
(平成25年5月現在)																										
富山県日青会	新潟県西部日青会	新潟県東部日青会	伊豆国日青会	栃木県日青会	茨城県日青会	埼玉県日青会	千葉北部日青会	千葉南部日青会	千葉西部日青会	千葉東部日青会	神奈川第三部日青会	神奈川第二部日青会	神奈川第一部日青会	東京南部日青会	東京西部日青会	東京東部日青会	青森立正青年会	秋田県日青会	岩手県日青会	山形県日青会	宮城県日青会	福島県日青会	北海道北部日青会	北海道南部日青会	北海道西部日青会	北海道東部日青会
谷川	大橋	本間	大塚	野澤	小林	星	河端	佐々木	宮川	小堀	加納	下邨	齊藤	豊	高桑	西村	川上	藤倉	菊池	佐藤	高川	鈴木	山口	若松	神	稲垣
寛敬	智憲	詮雄	信誠	智秀	栄樹	光陽	孝順	了暢	善光	祥有	匡司	先洋	慈恭	正路	寛隆	洋行	信行	鍊城	義信	鍊信	本学	龍泰	誨泉	靖寿	見穂	
宮崎・鹿児島・沖縄日青会	大分日青会	長崎県日青会	佐賀県日青会	熊本県日青会	福岡県日青会	鳥取県日青会	島根県日青会	広島県日青会	岡山立正日青会	兵庫東部日青会	和歌山日青会	奈良立正青年会	大阪豊能日青会	大阪三島日青会	大阪和泉日青会	大阪日青会	京都府第一部日青会	京都日青会	三重県日青会	愛知県三河日青会	愛知県尾張日青会	名古屋日青会	岐阜県日青会	長野県日青会	石川能登日青会	石川県第一部日青会
太田	三ヶ尻	宮崎	淵上	竹迫	川崎	米涌	坂本	長崎	大野	川添	吉野	松島	高橋	長内	藪木	船場	中山	日暮	富田	河合	小松	勅使河原	阪口	伊神	藤井	堀田
寛周	和生	泰彦	泰之	裕恭	泰龍	玄雅	教暎	龍深	貴正	泰寛	俊幸	寛宗	大光	要純	正純	光隆	孝俊	有宏	周温	良延	友學	映徳	玄記	昭光	龍教	

身延山久遠寺御用達 日蓮宗大荒行堂御用達

甲州印伝・珠数・水晶・各種記念品

身延山

紫雲堂

珠数・腕輪修理承ります

〒409-2524 山梨県南巨摩郡身延町身延3648
TEL 0556-62-0102 FAX 0556-62-3383


時我及衆僧 俱出靈鷲山

国内外を問わず団参は 日蓮宗指定業者

大陸旅遊

インド・ネパールはもちろん中国シルクロード・スリランカ・ミャンマー・ラオス・ベトナム
ブータン・アンコール遺跡等へのご旅行手配もおまかせ下さい。

日蓮宗指定業者 国土交通大臣登録旅行業第1399号 / 日本旅行業協会正会員

 株式会社 大陸旅遊 TEL 03-3376-2511
FAX 03-3376-5280
〒160-0023 東京都新宿区西新宿5-5-6 第二ダイヤモンドビル2階
http://www.tairikyoryu.co.jp mail:tlc@tairikyoryu.co.jp